第１回稲美町総合計画審議会　議事録

１　日　時　　令和２年 11 月９日（月）19：30～20：40

２　場　所　　役場新館４階　コミュニティセンターホール

３　出席者

委　員　　田端会長、福井副会長、本多委員、高橋委員、西澤委員、佐和田委員、中本委員、佐藤委員、岩本委員、坂田委員、山谷委員、大野委員、下阪委員

欠席者　　大前委員

事務局　　藤田浩之、井上勝詞、赤松嘉彦、丸山善之、穴田雄暉、コンサルタント１名

４　会議の概要

１　開　会

・事務局より、資料の確認

２　町長あいさつ

町　　長：第１回稲美町総合計画審議会を開催したところ、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。現在の第５次総合計画は平成 24 年度から始まり、令和３年度で終わる 10 か年計画。住民の将来性を示す計画として、令和４年度からスタートする「第６次稲美町総合計画」の協議や検討いただくにあたり、今年度と来年度の２か年にわたって、皆さんには色々とご検討やご審議を賜りますが、稲美町の住民の将来を示す最も重要な計画であるため、皆様方の知恵を拝借し、中身のあるものにしていければと思っています。どうぞよろしくお願いします。

３　委員の選任・委嘱状の交付

・町長より、委員への委嘱状の交付

４　自己紹介

・委員及び事務局、自己紹介

５　会長・副会長の選出

・会長に田端委員、副会長に福井委員を委員一同の承認を得て決定。

６　会長・副会長就任のあいさつ

会　　長：皆さんのご意見を色々と賜りながら、総合的に、俯瞰的に議論を進めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。昨今、新型コロナウイルスに関して、色々な活動を制限していることもあり、皆さんの活躍の範囲でも相当な影響が出ているのではないかと思う。そうすると、どうしても萎縮してしまう傾向にあるが、将来の稲美町を

考えていただく上では、前向きに希望を持った計画を作れたらと思っている。稲美町は、町民の皆さんから子育てがしやすい町だという言葉を聞く。また、美しい緑があるという町の特徴は非常に評価されるところが多いと思う。アメリカ大統領選においてバイデン氏が優位だが、彼が進めていきたいのはグリーンニューディール。自然環境が世界的にも評価される時代にあって、緑美しい稲穂の茂る稲美の地は、今後将来にわたって注目されるようになるかもしれない。このように、前向きに希望のある計画を皆さんと一緒に考えていければと思う。今後は私の方で司会を務めさせていただくので、ご協力を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。

副 会 長：不慣れではございますが、会長のサポート役として取り組んで参りたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

７　諮問書の提出

・町長より、会長に諮問書を提出

・事務局より、会議の公開（傍聴人の参加）、議事録のＨＰ公開について説明。

８　審議事項

（１）第６次稲美町総合計画の策定について

・事務局より、資料１の説明

（質疑応答）

委　　員：総合計画と総合戦略の違いは、総合戦略は主に人口だけに的を絞っているということか。

会　　長：地方創生総合戦略の中では、首都圏に集中している人口を地方に分散させるという方向性。一方、地方では、それをどう受け入れていくか、増やしていくかを考えなければいけない。東京から追い出すのではなく、地方で受け入れる範囲を広げるという考え方。そのための具体的な戦略が必要となるので、人口に注目して、戦略を考えていくのが総合戦略になる。一方で、総合計画では人口のことを考えてないかと言えばそうではなく、計画に密接にくっつく形で総合戦略を考えるというのが稲美町の方針となる。

委　　員：総合計画の中に盛り込むことはできないのか。

会　　長：市町によって様々なやり方がある。総合計画は元々、地方自治法に基づく計画で、現在は町独自の計画である。一方、戦略は、補助金などの観点から、国からの「こういったものを作りなさい」という方向に応じて策定する。そういう意味では、別々に作ることが仕方のない部分もある。多くの自治体で、総合計画と総合戦略を同時期に作るため、計画期間を延長するなどして、策定時期をそろえる動きがあるが、総合計画自体は 40～50 年前から作り始められたが、まちひとしごとは最近出てきた話。それをどう連動させていくか、どこも苦慮しているところだと思う。

（２）住民意向調査結果について

・事務局より、資料２「住民意向調査結果報告書」の説明

（質疑応答）

委　　員：総合計画・総合戦略等々について、アンケート結果を基に考えていくと思うが、その前提条件として、回答者の属性を見ると、性別だと女性の方が少し多く、年代では60歳以上の方が多い。つまり、この調査結果は年配の方の意見が強く反映されているという認識で間違いないか。

会　　長：調査を行う場合、全国的にどうしてもこのような傾向になりやすい。特に、今回は全世帯アンケートで、世帯の代表者が答えた場合、こういう傾向になることは否めない。今日は単純集計しか出ていないが、年齢別や性別、職業別等のクロス集計をすることで、もう少し細かいことが分かってくる。その結果を見て、またご意見いただければと思う。

事 務 局：今回は全戸配布しているため、世帯主の方が回答している場合が多く、60～70歳代が多いと感じている。しかし、これとは別に、ターゲットを絞ったアンケート調査も実施している。総合戦略の策定に向けて、将来人口を推計する際に活用する項目を含めた調査を実施しており、これから就職や進路のことを考えていく18歳と22歳の方には進路に関する内容を含めたアンケート、また15～49歳の方には結婚・出産に関するアンケートを実施している。この調査には、今回提示した住民アンケートと重なる項目も多数ある。これらの調査結果も含めて分析することで、広い年代からの声を含めることができると思っている。

委　　員：アンケートの最後に自由記述が１ページ分くらいあったが、何かユニークな、面白いアイデアはあったのか。

事 務 局：現在集計を進めているところである。さまざまな意見をいただいているので、次の機会に紹介したい。

委　　員：統計書を見れば良かったが、２ページの居住小学校区の比率のバランスが悪いと思う。回答比率を世帯数でみると、天満地区の回答がとても多いように思う。世帯数の割合が分かれば、回答の傾向が分かると思う。

会　　長：設問では小学校区を聞いている。

委　　員：小学校区と言っても、加古、母里、天満で地域の形態が違う。戸数が分かれば教えてほしい。

事 務 局：総合戦略期間延長版の８ページ、地域別人口の推移をまとめている。平成27年度の数値になるが、加古が4,487、母里が5,560で、各約5,000に対して、天満で合計が約20,000と、だいたい１：４の比率になる。その考え方でみると、今回の居住小学校区の結果は、ほぼ１：４の比率で回答をいただいているので、ほぼ同じ割合で出ていると考えている。

会　　長：小学校区での人口割を確認してもらって、分析でも地域性があると思う。こういう分析をしてほしいとか、このようなデータがほしいという意見があれば、また事務局に連絡してもらえれば。

委　　員：アンケートを、これから計画に利用していくのか。

事 務 局：総合計画を作るためにアンケートをとっている。10年前からどういう動きがあるのかを分析して、今後10年間の町づくりをどうしていくか、アンケートも重要な基礎資料としていきたい。

委　　員：アンケートはこの１回限りで、計画期間中はもうやらないのか。

事 務 局：総合計画の今後 10 年間については、このアンケートを活用する。これ以外に、子育て世代や学生が今からどう動いていくかというアンケートもしているので、それは今後お示しする。

委　　員：色々と分析していくと思うが、これだけを単純に見れば偏った調査だと思う。これが本当に稲美町の町民の意見を反映しているのか。それを分析して、判断できるのか。

事 務 局：理想を言えば全戸、全町民から回答をもらうのが理想だが、なかなか難しいと考える。今後クロス集計を行う中で、年代別の意見などを見ながら審議していきたい。

委　　員：クロス集計でどれだけ反映できるか。稲美町の町民の意見が反映されるか。

会　　長：資料１の９ページに総合計画の策定体制がある。住民への意向調査の１つがこのアンケート結果だが、他にも 100 人会議の実施や、モニターアンケートの実施など、さまざまなツールを使うことが予定されている。また、計画案は、日頃から住民の方と接していて、どういう課題があるか、どういう必要性があるかをある程度熟知されている稲美町総合計画策定委員会（担当課）が素案を作ることになる。このアンケートを総合的に判断するところに答えがあるので、このアンケートだけで作るわけではない。色々な情報を組み合わせて作るので、高齢者だけでない意見も反映していくので、皆さんからも意見をいただければと思う。

（３）その他について

・事務局より、次回の会議日程について調整し、１月 25 日（月）予定について説明。

９　閉　会